

学校・家庭・地域連携協力推進事業等

実践事例集

【放課後子供教室】



静岡県では、学校・家庭・地域の連携・協働による社会総がかりの教育を推進しています。

教育活動を進める県内市町の協力により、地域学校協働本部や放課後子供教室、家庭教育支援、通学合宿など地域ぐるみで子供を育む活動の実践事例集を作成しました。

地域の様々な活動の事例集を活用し、社会総がかりの教育体制の一層の充実を図ります。

地域学校協働本部

地域住民・団体が学校とともに、目標やビジョンを共有し、地域ぐるみで子供たちを育む緩やかなネットワークを構築。

放課後子供教室

放課後等の子供たちの安全・安心な居場所として、地域住民の参画を得て、多様な体験活動や地域住民との交流、学習機会を提供。

家庭教育支援

すべての親が安心して家庭教育を行えるよう、家庭教育支援員の養成や家庭教育支援チームの組織化、学校等との連携により、保護者への学習機会の提供や相談対応等を実施。

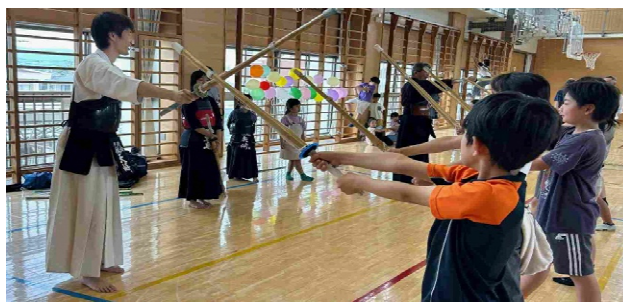
通学合宿

子供が自己を律しながら生きる力を育むとともに、地域の教育力の向上を図ることを目的として、異年齢の子どもたちによる共同生活を実施。

静岡県教育委員会

市町名	沼津市
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	平成 27 年度
--------	----------

立ち上げ経緯	片浜小PTAであったコーディネーターが、市放課後子ども総合プラン運営委員に就任したことがきっかけ。片浜地区連合自治会長やPTA会長と市内放課後子ども教室を見学し、平成26年度2回のトライアルを実施し関係機関と検討を重ね立ち上げた。
--------	---

活動名	片浜小放課後子ども教室			
実施箇所名	片浜小放課後子ども教室運営委員会			
活動の概要・特徴・工夫	目的	放課後等に全ての児童（登録児童）を対象として、学習や体験・交流活動などを行い、児童と地域住民の交流による地域コミュニティの充実		
	開催日数等	10回/年 程度	実施場所	片浜小体育館とグラウンド 地区センター等
	参加児童・生徒数	約90 人	ボランティア数	約20 人
	<p>片浜小に通う希望する全児童（児童クラブに通う児童含む）対象とし、平日放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動ができるよう、地域住民等の参画を得て、学習や体験・交流活動などを行う。令和6年度は、自由遊び、勉強、避難訓練、剣道、サッカー、風船遊び、マジック鑑賞と体験、さつまいも収穫、海岸へ行き拾った石や流木を使い地域コミュニティ祭りにて作品展示など実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な体験活動を実施し、地域の活動団体との交流の創出。遊び、勉強、体験等を提供するが、当日何を選択するかは児童の自由。自分で決定する心、自己決定力を育てる。 総会や、開催前に毎回委員会を行い共通理解を深める。また、ボランティアグループワークを開催しボランティアの資質向上を目指す。 年1回活動報告とボランティア募集を自治会回覧全戸配布。 			
	連携先	学校、自治会、各種スポーツ協会、企業等		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 大谷グローブを小学校から借り三世代キャッチボールを企画し実施。片浜中学校野球部OBや地域クラブが開催協力し、企業よりボールの提供。地域シニアソフトボールクラブからは後日小学生用グローブを寄贈していただき、グラウンドではキャッチボールの遊びが追加された。 異学年の児童が自由に遊び、自然に上級生が下級生のリーダーとなる姿が多くみられるようになった。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 安全管理上、活動終了後は保護者のお迎えと集団下校を原則としている。集団下校時の引率ボランティアの人数確保が難しい。 			
備考	地域学校協働活動推進員等養成講座5名受講			

参考URL	
-------	--

市町名 熱海市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	

撮影許可を得ていないため活動の写真を撮影できない

実施開始年度 年度

立ち上げ経緯 不明

活動名	熱海市学習支援			
実施箇所名	市内公民館等			
活動の概要・特徴・工夫	目的	市内の児童生徒の基礎学力向上のため		
	開催日数等	年間32回	実施場所	市内公民館
	参加児童・生徒数	30 人	ボランティア数	6 人
	<p><概要・特徴> 市内の小中学校児童生徒、小学校は6年、中学校は3年に在籍するもので、学習の補充を希望する者に対し、指導員の指導の学習する場所を提供する。</p> <p><活動上の工夫> ・指導員は教職経験者や大学生など多様な児童生徒に対応できるようさまざまな人材を採用している。 ・基本は自主的な学習の場として、各自が持ち寄って学習したい内容を2時間程度行う。</p>			
	連携先	なし		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・延べ25名の児童生徒が参加した。 ・基礎学力の向上のため各自の課題を持ち寄り、時間いっぱい集中して学習する様子が見られた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員の高齢化や児童生徒の通塾などによるニーズの変化に対応していく必要がある。 			
備考				

参考URL

市町名 三島市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯

様々な理由から学校へ通うことが難しい児童生徒に寄り添い、学校復帰や社会的自立を目指すため、平成19年に三島市民生涯学習センター内に教育支援センター『愛称：ふれあい教室』を設置。令和4年度から「三島市青少年相談室体験学習実行委員会」を組織し、「ふれあい農事体験」事業を開始した。

活動名	ふれあい農事体験		
実施箇所名	三島市ふれあい教室 ふれあい体験農園 (三島市民生涯学習センター内)		
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	居場所づくり 自立支援	
	開催日数等	通年	実施場所 三島市民生涯学習センター内 屋上緑化花壇
	参加児童・生徒数	30 人	青少年相談室相談員(5名) ふれあい教室指導員(3名) 8 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節の野菜や花を、種や苗から育て、収穫・試食、鑑賞、片付け等までを全て体験することで、四季を感じたり、不足している体験活動を経験したりする機会を確保する。 ・自宅にこもりがちな児童生徒に対し、外へ出るきっかけを与える。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・育ててみたい野菜を通室生自身が選択し、植え付けを行う。また、自分で植え付けたものには名札を取り付け、区別できるようにしている。こうすることで、自分の苗が育っていく様子に関心を持ち、楽しく観察することができると考えている。 ・ふれあい教室に通室する児童生徒とは、市から貸与されているタブレット端末で連絡を取っている。これを活用し、種蒔きや収穫祭などのイベント前には、情報を発信し、通室を促している。また、農事体験での活躍を認め励ますことで、児童生徒の自己肯定感や自己有用感を高められるように努めている。 ・収穫したものは、ふれあい教室で食すだけでなく、自宅へ持ち帰り、各家庭でも食べてもらうことで、家族と喜びを共有したり、達成感を味わったりできるようにしている。 ・市が管理する地域花壇の一部を使い、花苗の移植体験も年に2度行っている。その際、三島市が進めている「ガーデンシティみしま」の取組について、市担当者から簡単に説明をし、花いっぱいのみちづくりにも参画しているということを理解することで、自己有用感を感じられるようにしている。 		
	連携先	三島市みどりと水のまちづくり課、三島市学校教育課、三島市青少年相談室、三島市民生涯学習課	
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・農事体験を楽しみにしている児童生徒が多数いる。 ・農事体験で収穫したものを自宅で調理して家族で試食したり、その様子をタブレット端末を通して報告したりする児童生徒もいる。 ・保護者や学校の先生以外の大人に対しても、自分から関わろうとする姿が見られた。 ・しばらく足が遠退いてしまっていた児童生徒も、これら活動をきっかけに自宅から外へ出ることができている。 		
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年相談室、ふれあい教室に所属する職員で農事体験に詳しい職員がいる時は良いが、持続可能という視点からも、これらのノウハウをきちんと残していく必要がある。 		
備考			
参考URL			

市町名 伊東市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 5 年度

立ち上げ経緯 放課後等に子どもたちが安全で安心して活動できる場所を設け、子どもたちに様々な体験・交流・学習活動の機会を提供するため、実施することとなった。

活動名	サウンドアドベンチャー			
実施箇所名	宇佐美小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	居場所づくり、体験・交流・学習活動等の機会の提供		
	開催日数等	14日間	実施場所	宇佐美小学校
	参加児童・生徒数	延べ154人	ボランティア数	延べ42人
	<p><概要・特徴></p> <p>2年生から6年生までを対象に、歌う、踊るといった体を使った活動をメインに実施。集団で活動する中で、人の話を聞く、意見を言う、協働することを繰り返すことで表現力を身につけ、自分から発信する力を高めている。更に、活動を通して自己肯定感や達成感を得ることを目標としている。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 振り付けのアイデア出しや、練習の回数など、子どもたちに問いかけながら活動を進める。 子どもたちの意見やアイデアを尊重するとともに、良いところを積極的に褒める。 			
	連携先			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに考えさせながら活動を進めることで、ひとりひとりが真剣に取り組んでおり、積極的な発言も多く見られた。 前年の活動が楽しかったと継続して参加している子どももいる。 低学年から高学年まで参加しているので、学年を超えた交流の機会にもなっており、上級生も下級生も協力しながら活動に取り組んでいる。 			
課題等	・特になし			
備考				

参考URL

市町名 富士市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 5 年度

立ち上げ経緯

核家族化、少子化、地域コミュニティの希薄化により、児童と地域住民とのかかわりや児童の体験学習等の機会が減少している。このことから、児童が協調性や主体性を身につけるとともに、多様な体験活動を通じて、自己肯定感を育み、何事にも挑戦する強くなかな心を育てるための事業として開始した。

活動名	まちセンチャレンジ教室			
実施箇所名	富士市教育委員会社会教育課			
活動の概要・特徴・工夫	目的	キャリア教育・STEAM教育・SDGs等の体験学習の機会提供、土日・夏休み等の居場所づくり		
	開催日数等	土日・夏休み等 年46回	実施場所	各地区まちづくりセンター
	参加児童・生徒数	各回20人程度	ボランティア数	各回3人程度
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校ではできない様々な活動・体験を通して、子ども達の興味を引き出し、物事に意欲的に取り組む姿勢を養う。 学年・学校の枠を越えた交流や地域で活躍する人・地域資源との触れ合いを通じて、感受性を広げるとともに、集団の中での思いやり、リーダーシップの精神、地域への愛着などを育む。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 全小学校区に設置の地区まちづくりセンターごとに原則1～2講座を開講 幅広いノウハウと地域の講師ネットワークを持つ民間事業者に企画運営を委託 講師に様々な職業の方を迎え、プログラミング、イスづくり、ドローン体験、スイーツデコなど様々なテーマの講座を実施し、キャリア教育・STEAM教育・SDGs教育等の要素も持たせる。 			
	連携先	一般社団法人 まちの遊民社		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 参加した児童からは「初めてやったけれど、たのしかった」「先生がわかりやすく、優しく教えてくれてうまくできた」などの感想があり、多くの児童が楽しんで活動を行うことができた 活動の中で、子どもたち同士の助け合いや譲り合いの場面を増やすことができ、異学年交流によるコミュニケーション能力と上級生のリーダーシップ向上、互いに思いやる経験を達成できた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 学区外から参加の場合は保護者の送迎が必須となるため、一部に参加できない児童がいる。 人気テーマについては、定員オーバーにより抽選を行い、参加者を決定するため、子どもたちの希望に沿えない面がある。 			
備考				

参考URL

市町名 富士市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 6 年度

立ち上げ経緯 子どもが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するべく、子どもの安全・安心な活動拠点となる居場所づくりを行う。また、子どもたちに多様な体験活動や地域住民との交流活動、学習機会などを提供するために開始した。

活動名	放課後子ども教室×少年教育講座			
実施箇所名	富士市教育委員会社会教育課			
活動の概要・特徴・工夫	目的	放課後の居場所づくり、多様な体験学習の機会の提供、多世代交流 等		
	開催日数等	放課後(主に水曜日)	実施場所	各地区まちづくりセンター、小学校体育館 等
	参加児童・生徒数	各回20~30人程度	ボランティア数	各回5人程度
	<p><概要・特徴> 小学生を対象に、放課後の居場所を提供するとともに、学校ではできない体験学習等を実施。他の年齢層や地域人材等との交流を通じて、地域への愛着を養い、将来、地域を背負っていく世代の健全育成を目的として全小学校区ごとに開催</p> <p><活動上の工夫> ・市内全26の小学校区ごとに参加者を募集し、事業を開催している。 ・人づくり推進員や地域の人材等に講師を依頼し、講座を企画運営 ・各小学校区の児童クラブと連携し、広く受講生を募集している。 ・学年を問わずに楽しく参加できる実施内容を随時調整している。</p>			
	連携先	静岡県人づくり推進員、一般社団法人まちの遊民社、富士市立高校など		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の感想で「先生が優しく教えてくれた」「先生とお話するのが楽しかった」などがあり、児童が楽しんで活動を行うことができた。また、地域の子どもたちが大人と関わる機会を作り、まちづくり活動の一助となった。 ・活動の中で、子どもたち同士の助け合いや譲り合いの場面を増やすことができ、異学年交流によるコミュニケーション能力と上級生のリーダーシップ向上、互いに思いやる経験を達成できた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・広報 ・児童の安全管理(保護者への引き渡し、夏季の熱中症対策 等) ・地域の講師や運営の担い手の確保 ・小学校との日程、会場等の連絡調整 			
備考				

参考URL

市町名 富士市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 昭和60年代以前

立ち上げ経緯

児童の体験活動や地域住民との交流の場が減少したことによって、子ども達の自己肯定感の低下などを引き起こし、学校・家庭・社会生活における多くの課題に繋がっている。本講座では、多様な体験の機会を提供し、子ども達の「感受性」「地域への関心と愛着」等を養うことや自己肯定感を育む。

活動名	まちづくりセンター少年教育講座			
実施箇所名	富士市教育委員会社会教育課			
活動の概要・特徴・工夫	目的	自然観察や地域人材との交流など多様な体験の機会づくり、学年を超えた集回活動や地域の大人等との交流、土日・夏休み等の居場所づくり		
	開催日数等	土日・夏休み等	実施場所	各地区まちづくりセンター
	参加児童・生徒数	各回20人程度	ボランティア数	随時
	<p><概要・特徴></p> <p>小学生を対象に、学校ではできない多様な体験学習等を実施。社会生活に必要な能力を養うことや、他の年齢層との交流、地域への愛着を養い、将来、地域を背負っていく世代の健全育成を目的として中学校区ごとに関催</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 概ね市内に13ある中学校区ごとで受講生を募集し、講座を行っている。 食育料理講座について地区の食生活推進員の方々にボランティアを依頼。 食育料理講座以外は、各地区のニーズや特徴、地域人材を活用した講座等を企画 			
	連携先			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 児童の感想で「先生が丁寧に教えてくれた」「話したことのない地域の先生に教わって楽しかった」などがあり、児童が楽しんで活動を行うことができ、また地区食生活推進員さんと地域の子どもたちが関わる機会を作り出せ、まちづくり活動の一助となった。 活動の中で、子どもたち同士の助け合いや譲り合いの場面を増やすことができ、異学年交流によるコミュニケーション能力と上級生のリーダーシップ向上、互いに思いやる経験を達成できた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 学区外から参加する場合の保護者の送迎を必須としているが、共働き等の理由により送迎ができず参加できない子がいる。 新たな地域人材の発掘 夏場の熱中症対策について、暑さ等で気分が悪くなる児童が出てくるので、別室で休める場所の用意や、緊急時の対策を念入りに打合せを行うことが必要である。 			
備考				
参考URL				

市町名 御殿場市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 21 年度

立ち上げ経緯

活動名	神山放課後子ども教室			
実施箇所名	御殿場市立神山小学校 図工室			
活動の概要・特徴・工夫	目的	放課後の子どもたちの居場所づくり		
	開催日数等	年26回	実施場所	図工室
	参加児童・生徒数	12人	ボランティア数	3人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々の参画を得て、平日の放課後に、「作ってあそぶ・楽しむ」をテーマに、身近にある紙・石・ビニール・枯れ葉など様々な材料を使って、作る楽しみや作ったもので遊ぶ楽しさを味わう。 ・子ども自主的な学習の支援・援助を行い、学習意欲の向上を図る。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間内で作り終えることができ、達成感や作ることの楽しさが分かるよう、協働活動支援員が下準備をして活動を行っている。 ・作ったもので遊んだり、使用したりできるものを選べるだけ選ぶことにより、作る楽しさと自分が作ったもので遊ぶ楽しさと、両方楽しめるように工夫している。 			
	連携先	御殿場市立神山小学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「自宅でも、自然物の中で、何か作れないかと考えたり、自分なりにイメージを膨らませて作ることを楽しむ姿が見られて嬉しい。」と保護者から意見をいただいた。 ・子どもたちが物を作ることが、好きになった。 ・時々学校の先生も活動を見に来てくれるので、先生と児童の放課後のコミュニケーションの場ともなっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・協働活動支援員3名で活動を実施しているが、高齢であり、引退されてしまうと放課後の子どもたちの居場所として、造形活動を継続することは困難になる。 			
備考				
参考URL				

市町名 裾野市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 5 年度

立ち上げ経緯

令和4年度まで学校教育課で実施してきた「すそのん寺子屋」事業を生涯学習課に移管し、地域学校協働活動の一つである放課後子ども教室として地域と学校が連携・協働した「すそのん寺子屋」(放課後子ども教室放課後学習支援事業)を実施。

活動名	すそのん寺子屋			
実施箇所名	市内小学校、中学校(地域住民による実施が可能な学校のみ)			
活動の概要・特徴・工夫	目的	放課後等の子どもたちの安全・安心な居場所を設け、地域住民と学校が連携・協働した学習支援等を実施し子どもたちに地域住民との交流、学習機会を提供する。		
	開催日数等	年間18回程度(平均)	実施場所	各学校の教室等
	参加児童・生徒数	各学校10~40 人程度	ボランティア数	各学校 3~5 人程度
	<p><概要・特徴></p> <p>地域住民による運営が可能な地域で寺子屋コーディネーターが中心となり放課後や長期休業中に、学校の空き教室等を利用して子どもたちの安全・安心な居場所を確保し、子どもたちに学習支援を実施している。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会から寺子屋コーディネーターに委嘱された地域住民が中心となり、学校の協力を得て寺子屋を運営している。 			
	連携先	学校運営協議会		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・顔と名前が分かる関係ができ、学習支援にとどまらず、日常会話がうまれるようになっている。 ・回を重ねるごとに、子どもと大人の交流が生まれ、分からないことを気軽に教えてもらったり、一緒に考えたりする姿がみられる。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援以外の取り組みについて、コーディネーターの育成やボランティアの確保が課題となる。 			
備考				

参考URL

市町名 函南町

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 年度

立ち上げ経緯

活動名	わいわい塾			
実施箇所名	函南町文化センター、西部コミュニティセンター、町内外各所			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	子供の居場所づくり、地域の人材育成		
	開催日数等	体験教室10回/年 運動教室15回/年 自然体験教室5回/年	実施場所	函南町文化センター 西部コミュニティセンター 町内外各所
	参加児童・生徒数	約130 人	ボランティア数	11 人
	町内在住の小学生を対象とした体験活動として、体験教室、運動教室、自然体験教室を実施している。体験活動を通して、子ども達の自主性や個性を伸ばし、学校の枠を超えた仲間づくりやリーダー精神の育成を目指す。また、地域のボランティアを講師として招き、年間を通じて様々な内容を学ぶとともに、ボランティア講師とのコミュニケーションを図ることで、地域の教育力を育む場とする。			
	<活動上の工夫> ・地域資源を活用することで、地元への愛着を深める内容となるよう工夫している。 ・子どもの外遊びの時間が減少していることを受け、令和4年度から自然体験教室を実施している。自然の中で身体を動かすことで、子どもの好奇心を刺激し、豊かな心を育むことを狙いとしている。			
	連携先	ボランティア講師		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 家庭または学校以外で子どもたちの安全な居場所を提供できた。 体験活動を通して、地域の方との交流を深めることができた。 町内小学校の児童を対象としているため、学校を超えた交流の機会を創出できた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 体験教室、自然体験教室は募集人数を大きく上回る受講希望者がいるが、受け入れられる人数に限られるため、活動に参加できない子どもたちがいる。 ボランティア講師が見つからず、実施したい活動内容があっても実施できない場合がある。 			
備考				

参考URL

市町名 函南町

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 22 年度

立ち上げ経緯 地域の方々から「桑村小学校の子供たちの学習サポートをしたい」との申し出を受け、当時の学校長との話し合いを経て発足し、今日に至る。

活動名	桑村道場			
実施箇所名	函南町立桑村小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援・子供の学習サポート		
	開催日数等	24日	実施場所	音楽室・まなびルーム
	参加児童・生徒数	12人	ボランティア数	8人
	<p><概要・特徴> 地域の方々为主体となり、週一回放課後学習支援を行っている。開校式・閉校式には子供たちだけでなく、職員及び保護者も出席し、子供たちの頑張りを認めている。令和5年度からは、夏季休業中にも2日間開催し、桑村道場を経験した中学生の協力も得られた。 講師の方々も少しずつ入れ替わるなどして、組織としての活性化も図られている。</p> <p><活動上の工夫> ・子供たちの学習進捗や学習理解の状況に応じて、個に対応した指導を積み重ねている。 ・一対一、もしくは一対二程度の人数比で、子供たちの学習を丁寧に見取り、学習内容の定着を図っている。</p>			
	連携先	鈴木薫氏		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが「道場のおかげで勉強が分かるようになった」「丁寧に教えてもらえるのでよく分かる」「近くに先生がいるので質問しやすい」といった声があがっている。1人の講師が2人以下の児童に対応していることで、いつでも話を聞いてもらえるという安心感があり子供たちの講師に対する信頼が厚い。 ・保護者も手厚く指導していただいていることに対し、感謝の気持ちをもっている。 ・職員も子供たちの学びの様子を記録簿を通して情報共有できている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・道場参加希望者が増えてきているが、希望する子供が増えると個に応じた指導が難しくなること。 ・地域人材の活用の面から講師の方を増やしたいと考えているが、実際のところは、難しい。 			
備考				

参考URL

市町名 清水町

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 年度

立ち上げ経緯

活動名	土曜日チャレンジキッズ			
実施箇所名	地域交流センター等			
活動の概要・特徴・工夫	目的	週末の子供たちの安全・安心な活動場所を確保し、地域と学校が連携・協働して様々な体験・交流活動の機会を定期的・継続的に提供する。		
	開催日数等	年間8回	実施場所	町地域交流センター
	参加児童・生徒数	20人×2クラス 40人	ボランティア数	約6人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 町内の小学1年生から6年生までを対象に、休日の土曜日、地域交流センター等を利用して土曜日チャレンジキッズを行っている。 町から委託を受け、町シルバー人材センターが主体となりボウリング場バックヤード体験教室、パステル教室、防災教室等の様々な体験教室の企画・運営を行っている。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な講師や指導者等のサポートにより運動、軽スポーツ、バルーンアートなど、様々な講師や指導者によって行われる体験教室に参加する中で、将来の生活や生きがいづくりを体験する場となっている。 町シルバー人材センターへの委託により、会員として教室に関わることで子供たちが地域住民とのふれあい、交流の場としている。 			
	連携先	(公社)町シルバー人材センター・行政・ボランティア団体等		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 異学年交流の実施は、相手の考え方、立場を理解する場として、社会性やコミュニケーション能力の向上につながっている。 児童とスタッフの交流が信頼関係の向上につながっている。 町内事業者のバックヤードを学ぶことにより、地元事業者をより深く知ることができた。 苦手としていることも仲間とチャレンジすることにより新たな発見となり苦手意識の克服につながっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 2クラスに分けての開催としたため回数が減ってしまった。 子供の突然の行動が分からず苦手とする会員もいるため人材確保が課題となっている。 参加者主体のプログラム立案(自主性の強化)の実施。 			
備考				

参考URL

市町名 清水町

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 年度

立ち上げ経緯

活動名	放課後チャレンジキッズ			
実施箇所名	町内小学校(清水小・西小・南小)			
活動の概要・特徴・工夫	目的	放課後の子供たちの安全・安心な活動場所を確保し、地域と学校が連携・協働して様々な体験・交流活動の機会を定期的・継続的に提供する。		
	開催日数等	年間13回	実施場所	各学校 体育館
	参加児童・生徒数	20人×2クラス 40人	ボランティア数	約6人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 町内の小学1年生から6年生までを対象に、平日の放課後、各学校の体育館を利用して放課後チャレンジキッズを行っている。 町から委託を受け、町シルバー人材センターが主体となり企画・運営を実施している。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> パートナーシップ協定企業等のサポートにより運動遊びを主体に実施。 町シルバー人材センターへの委託により、会員として教室に関わることで子供たちが地域住民とのふれあい、交流の場としている。 放課後児童教室と連携を図り、希望する児童が参加できるようにして 			
	連携先	(公社)町シルバー人材センター・行政・ボランティア団体等		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 異学年交流の実施は、相手の考え方、立場を理解する場として、社会性やコミュニケーション能力の向上につながっている。 パートナーシップ協定企業等の継続的なサポート、運動指導により、体力向上、運動能力・技能の向上が見られる。 児童とスタッフの交流が信頼関係の向上につながっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 参加者主体のプログラム立案(自主性の強化)の実施。 学校によっては希望者が多く抽選により決定している。 個々に体力等差があり、暑い時期は熱中症の対処、対応が必要となる。 子供の突然の行動が分からず苦手とする会員もいるため人材確保が課題となっている。 参加者主体のプログラム立案(自主性の強化)の実施。 			
備考				
参考URL				

市町名 小山町

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	

実施開始年度 令和 6 年度

立ち上げ経緯

平成27年度から、国の「放課後子ども教室推進事業」に基づいてこの事業がスタートした。
 ○町内の小学校区において放課後や週末等に小学校の余裕教室を活用する。
 ○地域の方々の参画を得て、子どもたちの活動を支援する。
 ○学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等に取り組む。
 ○子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。

活動名	放課後子ども教室「すばしり」将棋教室			
実施箇所名	小山町立須走小学校外国語ルーム			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子どもの安心・安全な居場所づくり ・遊びや様々な交流体験を通しての子どもたちの豊かな人間性の涵養 		
	開催日数等	週1回年間	実施場所	須走小学校外国語ルーム
	参加児童・生徒数	23 人	ボランティア数	5 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小1から小6まで男女を問わず幅広い年齢の児童が参加している。 ・入学したばかりの1年生も頑張って将棋のルールを覚え、高学年と対局する。 ・6年間続けて参加している児童もあり、卒業する頃にはかなりの腕前になっている。 ・毎回、活動の始めに先生から「詰将棋」の問題が出され、みんなで試行錯誤しながら解いている。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・将棋の活動は16時～17時だが、教育サポーターが15時から部屋を開場し、宿題を済ませたり、異年齢の子ども同士で交流したりして過ごす。 ・令和6年度は、須走中に進学した卒業生が、学校の許可を得て、部活動のない日にボランティアとして参加してくれるようになった。 ・彰徳山林会という団体からの支援により、将棋のルールブックを一人一冊購入していただき、それぞれが参考にしながら将棋に臨んでいる。 			
	連携先	(・放課後指導クラブ・須走中学校)		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・小1から小6までの児童が交流しながら将棋に取り組むことで、異年齢の関りが生まれ、中・高学年が我慢して低学年に譲ったり、指導してあげたりする場面が増えている。 ・小1から毎年この活動に参加することで、将棋への興味・関心・実力が高まり、子ども新聞の詰将棋コーナーに自ら投稿して掲載される生徒が増えている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・5月末から6月に活動がスタートするが、小1児童が参加しているため、なかなか活動になじめないケースが毎年見られる。時間と共に解決するが、最初の一ヶ月にトラブルが発生することもある。 			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年が参加しているため、学校の下校時刻との調整が難しい。 ・放課後指導クラブに参加している児童はそこから参加し、そこに戻るので連携しながら活動している。 			
参考URL				

市町名 島田市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 19 年度

立ち上げ経緯

平成16年度から平成18年度に文科省にて行われた「地域子ども教室推進事業」を受け、県からの委託事業として初倉公民館を活動拠点に「クラクラ初倉子ども教室」を実施。平成19年度からは「初倉放課後子供教室 フレンズクラブ」に名称を改め市の事業として実施している。

活動名	初倉放課後子供教室 フレンズクラブ			
実施箇所名	岡田公会堂			
活動の概要・特徴・工夫	目的	放課後等に子供達の安心・安全な活動拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画のもと、子供達が心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。		
	開催日数等	年間25回	実施場所	岡田公会堂 等
	参加児童・生徒数	30 人	スタッフ数	12 人
	<p><概要・特徴> 初倉小学校と初倉南小学校の児童を対象に、5月～2月(8月を除く)の水曜日の16:00～17:20に、岡田公会堂を活動拠点とし、地域の方々の指導のもと、陶芸教室、和菓子作りなどの文化活動や、スポーツ活動に取り組む。</p> <p><活動上の工夫> ・編成された各班が当番となり、始めの会・終わりの会の進行や、その日の活動の感想を述べるなど、子供達の積極的な参加を促している。 ・放課後児童クラブや、地域シニアクラブの方々との交流活動を実施し、子供同士や地域の大人との関りを深めている。</p>			
	連携先	放課後児童クラブ、シニアクラブ等		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート調査の結果では、「他のクラスや他の学年の友達と遊ぶことが増えた」「テレビを見る時間やゲームをやる時間が減った」「地域の方など大人の人にあいさつや話をするが増えた」といった項目で高く評価をいただいている。また参加させてよかったかという設問では96%がよかったと回答いただいた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に従事するスタッフの高齢化が進みつつある。長期的に従事いただけるスタッフの募集を公民館だよりやスタッフの人脈の中で探しているが見つからない。 			
備考				

参考URL

市町名 焼津市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	

実施開始年度 平成 19 年度

立ち上げ経緯

活動名	わんぱく寺子屋			
実施箇所名	静岡福祉大学			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	居場所づくり、体験・交流・活動の機会の提供		
	開催日数等	月1回・年8回程度	実施場所	食堂、体育館
	参加児童・生徒数	延べ91人	ボランティア数	延べ83人
	<p><概要・特徴> 月1回土曜日の午前中に静岡福祉大学の大学生等が子どもたちの体験活動を支援している。</p> <p><活動上の工夫> ・参加する子どもの年齢が幅広いため、企画内容を学生スタッフで毎回検討している。</p>			
	連携先	静岡福祉大学		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・参加する児童は、保護者とはちがう年齢の近い身近な大学生との関わりを通して、学校生活では体験できない遊び、学びの場を体験できる居場所の機会となっている。 ・運営支援する学生スタッフにとって、今後のキャリア形成や地域の児童とのふれあいを通して有用な活動となっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・参加する子どもの対象が小学1年～6年等幅広いため、異なった年齢の子どもが楽しめる企画作りが課題となっている。 ・学生スタッフが小学生の発達段階を理解して、企画内容を検討する研修および指導が必要となっている。 			
備考				

参考URL

市町名 掛川市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 28 年度

立ち上げ経緯

平成27年度「放課後等教育支援かけがわモデル事業」を実践。翌28年より、各学園の子ども育成支援協議会へ委託契約を行い、現在まで地元の人材を活用した様々な放課後教室を年間通じて開催している。

活動名	大浜学園放課後子ども教室			
実施箇所名	千浜小学校・大坂小学校(大浜中学校区内)			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	放課後と夏休みのこどもの居場所づくり		
	開催日数等	36日	実施場所	各小学校 市民交流センター
	参加児童・生徒数	2226 人	ボランティア数	200 人
	<p>子ども育成支援協議会を中心に、学園コーディネーターが協力して、大坂小、千浜小で月1~2回程度(平日)実施している。 夏休み期間中は、夏休み子ども教室を15日前後開催した。 また本年度より、4回土曜日の教室も行った。</p> <p>全日両学校から大勢の児童が参加しており、にぎわっている。 シニアクラブと連携し、見守りの人員を確保している。 夏休みの教室では、さらに地域の中学生がボランティアに参加、世代を超えた交流の場にもなっている。</p>			
	連携先	子ども育成支援協議会、シニアクラブ、地域住民		
活動の成果	平日・夏休みともに参加者は毎回5~60名と大変に多く、保護者からの評判もよい。地域住民の中でも教室活動が定着している。シニアクラブとの連携から、本年度より休日の教室を開始することもできた。			
課題等				
備考				

参考URL

<https://www.city.kakegawa.shizuoka.jp/gvosei/docs/9392.html>

市町名 藤枝市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 21 年度

立ち上げ経緯 子どもたちにスポーツを楽しみ、親しんでもらいたいと考え、地元団体が立ち上げた。

活動名	大洲ジュニアクラブ			
実施箇所名	大洲小学校、大洲地区交流センター			
活動の概要・特徴・工夫	目的	居場所づくり、体験活動の提供		
	開催日数等	月2回程度、約20回	実施場所	大洲小学校体育館 大洲地区交流センター
	参加児童・生徒数	34 人	ボランティア数	2 人
	<p><概要・特徴> NPO法人大洲スポーツクラブが運営を受託し、大洲小学校区の小学生を対象に月2回程度、土曜日の午前中、子どもたちが楽しく安全にスポーツができる機会を提供している。その他にも、芋掘りと食育教室、社会科見学等も実施している。</p> <p><活動上の工夫> ・運動の得意、不得意、年齢差に関わらず楽しめるような集団スポーツを実施するようにしている。スポーツが苦手な子どもには個別にサポートするようにしている。 ・安全に活動できるよう見守り、危険なときには声かけをするが、子どもが自由に楽しめるように活動にゆとりを持たせたり、自分で危険を察知して行動できるような環境づくりをしたりしている。</p>			
	連携先	小学校、自治会、地区交流センター		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツが苦手だと言っていた子どもが、活動を通して身体を動かす楽しさを知り、スポーツに対して前向きに取り組むようになった。 ・異学年やスタッフ（地域住民）とのコミュニケーションを通して、交流の輪が広がっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の高齢化 ・参加児童数の減少 			
備考				

参考URL

市町名 菊川市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 19 年度

立ち上げ経緯 H16年度の「地域子ども教室推進事業」の開始をきっかけに、市内の3小学校にてモデル事業として開始し、H29年度までに市内全小学校での立ち上げが完了した。

活動名	河城小放課後子ども教室			
実施箇所名	菊川市立河城小学校・河城地区センター			
活動の概要・特徴・工夫	目的	健全育成、居場所づくり		
	開催日数等	5月～12月の間 月2・3回程度 計15日	実施場所	体育館・グラウンド ・地区センター
	参加児童・生徒数	22 人	ボランティア数	21人(うちコーディネーター1人、教育活動リーダー13人、ボランティア7人)
	<概要・特徴>	<ul style="list-style-type: none"> ・1つのテーマごとに、日にち、場所、参加児童および見守るスタッフ(講師)を分けており、クラブ活動のような形式になっている。 ・令和6年度は、スポーツ教室A、スポーツ教室B、日本舞踊、歌謡、手芸の5種類の活動を実施。(スポーツ教室A・Bは学年や内容が異なる) 		
	<活動上の工夫>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士のトラブルが発生した場合は、学校に相談しアドバイスをもらっている。 ・コーディネーターから主催課である社会教育課へ活動日誌を提出し、安全管理等の問題点や不明点を確認し、対策をしている。 ・運営スタッフは、主に同じ小学校区に住む方々であるため、本事業以外でも交流がしやすく、「地域ぐるみでの子育て」に繋がっている。 		
	連携先	主に地域のシニア層		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「他学年との交流」、「異世代間での交流」および「時間をかけてひとつのことに取り組む」機会を与えられている。また、地域文化の継承にも繋がる。 ・一部の活動の成果は、地区のイベントにて発表している。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・【スタッフの量的・質的不足】高齢化等による地域スタッフ不足・後継者不足と、あくまで地域の方々であるため、トラブル時の子どもへの指導やけが等の対応が課題である。 ・【安全管理】「帰宅時に大人の付き添いがいないこと」「明確なスタッフ人数および児童の定員の規定がないこと」等、児童クラブとは異なる取り扱いに、学校や保護者から不安視の声がある。また、昨今の置き去り事件等で、子どもの安全管理に求められるものが変化するなかで、スタッフ側の認識や対応をアップデートさせることにも苦慮する。 ・【子ども教室の需要】コロナ禍を過ぎ通常運営を再開したが、参加者数が減少した。原因として、平日の放課後に習い事に行く子どもの増加や、コロナ禍の影響による「きょうだいが過去に参加していたから」という参加者の減少等が考えられる。対象学年を広げる、回数を減らして参加しやすくするといった対策が必要である。 			
備考				

参考URL <https://www.city.kikugawa.shizuoka.jp/shakaikyouiku/houkagokodomo.html>

市町名 吉田町

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	

実施開始年度 平成 30 年度

立ち上げ経緯 平日4時間授業日の増加に対応し、児童が安全で安心できる活動拠点を確保するために事業を開始した。

活動名	どんぐり教室			
実施箇所名	吉田町立中央小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	放課後の居場所づくり、体験活動の提供、地域コミュニティの充実		
	開催日数等	年間30日程度	実施場所	学校体育館
	参加児童・生徒数	130 人	ボランティア数	15 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 平日4時間授業日の放課後に、地域住民が学校の体育館を利用して、体験活動の場を提供している。 放課後児童クラブに在籍する児童を含むすべての児童が参加できる。 参加料なしで参加できる。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 季節行事やスポーツ大会など、多種多様な活動を取り入れている。 地域に住む様々な職種、立場の方を講師に招き、体験活動をしたり講話を聞いたりすることで、普段は体験できないことや聞くことができる。 地域住民が主体となり、活動の計画や準備をしている。 			
	連携先	NPO法人eとこ吉田		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 子供が様々な体験をすることで、興味関心を広げることができている。 子供の放課後の居場所となっている。 地域住民と子供が交流することで、地域コミュニティの充実が図られている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 活動の中心となるコーディネーターを複数育成していく必要がある。 新たなボランティアを確保する必要がある。 			
備考				

参考URL

市町名 吉田町

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	

実施開始年度 令和 3 年度

立ち上げ経緯 平日4時間授業日の増加に対応し、児童が安全で安心できる活動拠点を確保するために事業を開始した。

活動名	住吉のびのび教室			
実施箇所名	吉田町立住吉小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	放課後の居場所づくり、体験活動の提供、地域コミュニティの充実		
	開催日数等	年間30日程度	実施場所	学校体育館
	参加児童・生徒数	160 人	ボランティア数	15 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 平日4時間授業日の放課後に、地域住民が学校の体育館を利用して、体験活動の場を提供している。 放課後児童クラブに在籍する児童を含むすべての児童が参加できる。 参加料なしで参加できる。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 季節行事や農業体験、スポーツ大会など、多種多様な活動を取り入れている。 地域住民が主体となり、活動の計画や準備をしている。 			
	連携先	吉田町シルバー人材センター		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 子供が様々な体験をすることで、興味関心を広げることができている。 子供の放課後の居場所となっている。 地域住民と子供が交流することで、地域コミュニティの充実が図られている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 活動の中心となるコーディネーターを複数育成していく必要がある。 			
備考				

参考URL

市町名 吉田町

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	

実施開始年度 令和 元 年度

立ち上げ経緯 平日4時間授業日の増加に対応し、児童が安全で安心できる活動拠点を確保するために事業を開始した。

活動名	放課後わくわく教室			
実施箇所名	吉田町立自彊小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	放課後の居場所づくり、体験活動の提供、地域コミュニティの充実		
	開催日数等	年間20日程度	実施場所	学校体育館
	参加児童・生徒数	130人	ボランティア数	10人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 平日4時間授業日の放課後に、地域住民が学校の体育館を利用して、体験活動の場を提供している。 放課後児童クラブに在籍する児童を含むすべての児童が参加できる。 参加料なしで参加できる。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 季節行事や農業体験、スポーツ大会など、多種多様な活動を取り入れている。 地域住民が主体となり、活動の計画や準備をしている。 			
	連携先	自彊わくわく教室(北区地域教育推進協議会)		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 子供が様々な体験をすることで、興味関心を広げることができている。 子供の放課後の居場所となっている。 地域住民と子供が交流することで、地域コミュニティの充実が図られている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 活動の中心となるコーディネーターを複数育成していく必要がある。 新たなボランティアを確保する必要がある。 			
備考				

参考URL

市町名 川根本町

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 28 年度

立ち上げ経緯 小学校と地域の連携活動の一環として開始。その後、児童数や社会環境の変化に伴い、活動内容を変更しながら現在に至っている。

活動名	『地域ふれあいスクール』			
実施箇所名	町内義務教育学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	居場所づくり、地域の人材育成		
	開催日数等	年10回 3教室	実施場所	教室・体育館他
	参加児童・生徒数	登録者35人	ボランティア数	約50人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 児童と地域住民が共通の活動を通じて、居場所づくり及び相互の育成が目的としている。 町内義務教育学校前期課程(1年～6年)が対象。3教室ともにコーディネーター中心に年間計画を作成し、運営する。 各教室9月～2月の水曜日、年10回の活動を実施している。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度の児童アンケートを基に人気の高い活動(スポーツ、料理、工作)を中心に計画している。 今年度は、3教室合同での芋掘り&焼き芋を実施し、他教室児童との連携を行った。 			
	連携先	地元住民、企業		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> この活動に限らず、地域住民と児童が交流する機会が増えることで、学校外での交流(登下校の挨拶等)に繋がっている。 放課後の余暇教室を利用することで、安心安全な居場所を提供できる。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> スタッフ不足、高齢化の問題が一番大きい。次世代に引き継ぎたいが、就労や子育ての問題もあり困難である。 現在、放課後に学校で活動しているが、場所や活動日(休日・夜間等)の検討が必要な時期に近づいている。 			
備考				

参考URL

市町名 袋井市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 20 年度

立ち上げ経緯

子どもたちがスポーツや文化活動、地域の方々との交流活動を通して、豊かな人間性やたくましい心身を育むことができるよう活動を開始した。

活動名	袋井西小学校放課後子ども教室			
実施箇所名	袋井市立袋井西小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	地域の大人(スタッフ)が子どもと交流しながら、さまざまな体験・学習の場を提供する放課後の居場所づくり		
	開催日数等	21回	実施場所	小学校体育館・コミュニティセンター
	参加児童・生徒数	34人	ボランティア数	9人
	<p><概要・特徴> 活動日：水曜日の1時間程度 活動時間：14時から15時(学校の日課によって変更あり) 活動内容：昔の遊び(凧づくり・カルタ・豆まき)、料理、座禅、茶道体験等 参加学年：2～6年生</p> <p><活動上の工夫> ・日本の文化(座禅、茶道等)や四季のイベントを取り入れた活動計画。 ・参加児童へ希望する活動のアンケートを実施。 ・安全に活動するために、活動場所での気温、湿度チェック。</p>			
	連携先	小学校、コミュニティセンター		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに地域の資源を生かしながら、学校や家庭では経験できない多様な体験活動を提供することができた。 異学年での活動により、リーダーシップを発揮する子どもが増えた。 地域の大人(スタッフ)との交流により変化し、登下校や別の活動の際にも子どもたちが、親しみを持って関わってくるようになった。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 新規スタッフの確保。 集団行動が苦手な児童への対応。 			
備考				

参考URL

市町名 湖西市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 20 年度

立ち上げ経緯 地域の方々の協力をいただき、放課後の子どもたちが安全で安心して活動できる場所づくりを進めます。

活動名	東っ子 わくわく子ども教室			
実施箇所名	東小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	地域の方々の協力をいただき、放課後の子どもたちが安全で安心して活動できる場所づくりを進めます。		
	開催日数等	10日	実施場所	東小学校体育館 ほか
	参加児童・生徒数	20人	ボランティア数	8人
	<概要・特徴> 放課後の時間にデカスポテニスやタグラグビー体験、手品やプラ板工作など、多様な体験活動を年間10回開催しています。			
	<活動上の工夫> プログラムについては、スタッフへ届く児童の声が反映されるように努めています。 また、異なる学年の児童と一緒に活動しているので、作業等が安全に進められているか見守りながら活動しています。			
	連携先	スポーツ推進委員、地元老人クラブ ほか		
活動の成果	参加児童は、工作やスポーツ・文化活動など、学校の授業とは異なる様々な体験を通じて、異学年との交流や放課後の居場所づくりとして楽しい時間を過ごしています。			
課題等	今後も継続していけるように運営スタッフを確保していくこと。			
備考				

参考URL

市町名 森町

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 5 年度

立ち上げ経緯 子どもたちが家庭における学習習慣を身につけることができるよう、小学生を対象に、夏休みに無料で学習支援をする「夏休み学習寺子屋」を開始した。

活動名	夏休み学習支援寺子屋			
実施箇所名	森町文化会館研修室			
活動の概要・特徴・工夫	目的	地域とともにある学校づくり		
	開催日数等	5日	実施場所	社会教育施設
	参加児童・生徒数	49人	ボランティア数	11人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 活動日：学校の長期休業期間（夏休み）5日間 対象者：小学生 退職教諭の学習支援員と大学生の学習支援サポーターによる学習支援 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校の授業時間にあわせ、40分学習のふたコマに10分間休憩としている。 異なる学校の児童や異学年の児童と一緒に学べる。 学習支援員と学習サポーターは「おたすけマン」として常駐している。 児童はいつでも気軽に「おたすけマン」のサポートを拳手をすることで、必要な時に迅速に助けを呼ぶことができる。 			
	連携先			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 学校とはちがった学習環境と地域の方や大学生との交流ができた。 大学生の地域活動のひとつとして定着しつつある。 「おたすけマン」のシステムは子どもたちが安心して質問でき、彼らの自己肯定感や学習意欲を高める効果があった。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 現在、対象を小学生として実施しているが、中学生を対象とした寺子屋の開催について望む声もあるため、開催方法を検討していく必要がある。 			
備考				

参考URL

学校・家庭・地域連携協力推進事業等
実践事例集

発行 令和7年3月

発行者 静岡県教育委員会社会教育課
〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号

電話 054-221-3115

F A X 054-221-3362

E-mail kyoui_shakyo@pref.shizuoka.lg.jp